

第19期（2020年度）事業報告 （2020年4月1日～2021年3月31日）

特定非営利活動法人 NPO 近畿水の塾は、第19期（2020年度）の事業について、以下のとおり報告する。

1. 人と水との関わりに係る調査及び研究

○継続的な公開研究会「河川塾」の開催

【実施内容】・「尼崎の歴史文化について」をテーマに、理事の安田博之さんによる尼崎市制100周年事業としてスタートした「城内まちづくり整備事業」等の取り組み紹介を実施した。

【実施場所】尼崎市立歴史博物館

【実施期間】2020年11月28日

2. 人と水との関わりに係る事業の企画及び実施

○各種イベント、出前講座の実施

【実施内容】・「琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム in 大阪一治水・環境・文化について考えよう」（11/21）に参画した。

- ・近畿各地から水環境保全に関心と関わりをもつ市民が集い、淀川流域の自然・文化・歴史を学ぶとともに、各地で進めている水環境保全活動を紹介し合い、よりよい河川環境保全と流域間連携のあり方について討論する「近畿水環境交流会 in 点野」を開催した（淀川まるごと体験会と共催。）。

- ・猪名川・藻川まつり（9月）の中で、Eボートによる水面利用イベントを企画実施。（中止）

- ・猪名川・藻川の合流点にある、「豆島」を活かした地域活動に参画。（中止）

【実施場所】近畿各地等

【実施日時】随時

3. 人と水との関わりに係る行政機関、各種事業主体、特定非営利活動法人、市民ボランティア団体等への助言、提案または技術的援助

【実施内容】・天若湖アートプロジェクト2020に後援した。

【実施場所】京都府南丹市日吉町日吉ダム天若湖畔

【実施日時】2020年10月24日

4. 人と水との関わりに係る専門家、実践者、市民及び各種機関等の交流の場の創出

○ホームページの作成・更新、ニュースレターの作成、会員MLの積極的利用等

【実施内容】・河川塾のお知らせ、会員情報等、積極的に情報発信した。

【実施場所】事務局

【実施日時】随時

○他団体との交流やネットワークの拡大

【実施内容】【実施場所】【実施日時】以下

- ・「全国水環境交流会」に積極的に参画した。下記他全国、随時。

- ・いい川・いい川づくりワークショップ2020：中部発オンライン特別企画「ゆく川 くる川 川談義」（20年12月26・27日。オンライン参加）。

- ・「第13回淡海の川づくりフォーラム」（21年2月7日。オンライン参加）。

- ・神戸「農都ネット」と情報交換を行った。

「かやぶきから里山の未来を考える」フォーラム（21年2月27日）参加。

- ・大島宮窪の川崎良重さんと情報交換を行った。

- ・学生等のインターンシップにより、次世代につなげる連携を行った。

以上

第19期（2020年度）特定非営利活動に係る活動決算

特定非営利活動法人近畿水の塾

2020年4月1日から2021年3月31日

(単位：円)

科 目	決算額	予算額	差異	備 考 (決算)
I 収入の部				
1 入会金・会費収入				
正会員会費収入	0	0	0	2020年度から会費無料化
賛助会員会費収入	0	0	0	
2 寄付金収入	0	0	0	
3 助成金収入	0	0	0	
4 事業収入				
調査・研究事業	0	5,000	△ 5,000	
シンポジウム等企画・実施事業	0	10,000	△ 10,000	
助言・支援事業	0	0	0	
交流創出事業	0	0	0	
5 その他収入				
受取利息	6	1,000	△ 994	
当期収入合計 (A)	6	16,000	△ 15,994	
前期繰越収支差額	777,430	777,000	430	
収入合計 (B)	777,436	793,000	△ 15,564	
II 支出の部				
1 事業費				
調査・研究事業	6,000	50,000	△ 44,000	7トリエCK使用 総会は書面評決 (6/6)
シンポジウム等企画・実施事業	0	50,000	△ 50,000	
助言・支援事業	0	0	0	
交流創出事業	0	0	0	
その他事業	0	0	0	
2 管理費				
広告宣伝費	0	0	0	
給与手当	0	0	0	
水道光熱費 (事務局)	0	0	0	
通信費	1,796	20,000	△ 18,204	切手代
旅費交通費	29,830	50,000	△ 20,170	
事務用品費	69,814	108,000	△ 38,186	ノートPC、コピー代等
会議費	23,500	28,000	△ 4,500	理事会会場費
減価償却費	0	0	0	
租税公課	0	0	0	
諸会費	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
雑費	0	0	0	
3 予備費	0	10,000	△ 10,000	
当期支出合計 (C)	130,940	316,000	△ 185,060	
当期収支差額 (A-C)	△ 130,934	△ 300,000	169,066	
次期繰越収支差額 (B-C)	646,496	477,000	169,496	

第20期（2021年度）事業計画 （2021年4月1日～2022年3月31日）

特定非営利活動法人 NPO 近畿水の塾は、第20期（2021年度）の事業について、以下のとおり計画する。

1. 人と水との関わりに係る調査及び研究

○継続的な公開研究会「河川塾」の開催

（前年度からの持越し、大滝講師による「京都カップ研究会」はじめ、候補は20塾弱）

【実施内容】・「私の関わる水環境」などをテーマに、会員を含め会員外の各自の仕事や市民活動等の取り組み紹介を「河川塾」で実施する。

・近畿各地で、川歩きなどフィールドワークを積極的に実施する。

【実施場所】 Atelier（アトリエ）CK 等

【実施期間】 2021年4月1日～2022年3月31日（月1回程度）

2. 人と水との関わりに係る事業の企画及び実施

○各種イベント、出前講座の実施

【実施内容】・「第3回琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム in 大阪」兼「第23回近畿水環境交流会 in 大阪」（5/15）に参画する。

・猪名川・藻川まつり（9月下旬）の中で、Eボートによる水面利用イベントを企画実施する。

・猪名川・藻川の合流点にある、「豆島」を活かした地域活動に参画する。

【実施場所】 藻川等

【実施日時】 2021年4月1日～2022年3月31日

3. 人と水との関わりに係る行政機関、各種事業主体、特定非営利活動法人、市民ボランティア団体等への助言、提案または技術的援助

【実施内容】

【実施場所】

【実施日時】

4. 人と水との関わりに係る専門家、実践者、市民及び各種機関等の交流の場の創出

○ホームページの作成・更新、ニュースレターの作成、会員MLの積極的利用等

【実施内容】・河川塾のお知らせ、会員情報等、積極的に情報発信する。

【実施場所】 事務局

【実施日時】 随時

○他団体との交流やネットワークの拡大

※「アート・プランまぜまぜ」解散総会。4月18日（日）開催。

「全国水環境交流会」に積極的に参画する。

*全国水環境交流会 ホームページ <http://mizukan.or.jp/>

*全国水環境交流会いい川いい川づくりワークショップのページ

<http://mizukan.or.jp/kawanohi>

・「第13回“いい川”・“いい川づくり”ワークショップ in 中部」に参加する。
（2021年10月2日（土）・3日（日）。於：岐阜市、『長良川国際会議場』）に参加する。

・「第14回淡海の川づくりフォーラム」に参画する。

・「全国トポ市民サミット・愛知豊田大会（?月?日）に参加する。

・神戸「農都ネット」と情報交換を行う。

・大島宮窪の川崎良重さんと情報交換を行う。

・学生等のインターンシップにより、次世代につなげる連携を行う。

【実施場所】 全国

【実施日時】 随時

第20期（2021年度）特定非営利活動に係る活動予算案

特定非営利活動法人近畿水の塾

2021年4月1日から2022年3月31日

(単位：千円)

科目	予算額	前年度決算額	差異	備考（予算額）
I 収入の部				
1 入会金・会費収入				
正会員会費収入	0	0	0	2020年度から会費無料化
賛助会員会費収入	0	0	0	
2 寄付金収入	0	0	0	
3 助成金収入	0	0	0	
4 事業収入				
調査・研究事業	5	0	5	
シンポジウム等企画・実施事業	10	0	10	
助言・支援事業	0	0	0	
交流創出事業	0	0	0	
5 その他収入				
受取利息	1	0	1	
当期収入合計（A）	16	0	16	
前期繰越収支差額	646	777	△ 131	
収入合計（B）	662	777	△ 115	
II 支出の部				
1 事業費				
調査・研究事業	50	6	44	河川塾講師謝礼、会場費
シンポジウム等企画・実施事業	50	0	50	総会后、拡大版講師謝礼等
助言・支援事業	0	0	0	
交流創出事業	0	0	0	
その他事業	0	0	0	
2 管理費				
広告宣伝費	0	0	0	
給与手当	0	0	0	
水道光熱費	0	0	0	
通信費	20	2	18	切手、振込料
旅費交通費	50	30	20	
事務用品費	8	70	△ 62	コピー代、封筒
会議費	28	24	5	理事会会場費
減価償却費	0	0	0	
租税公課	0	0	0	
諸会費	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
3 予備費	10	0	10	
当期支出合計（C）	216	131	85	
当期収支差額(A-C)	△ 200	△ 131	△ 69	
次期繰越収支差額(B-C)	446	646	△ 200	

2021年度 役員候補名簿

特定非営利活動法人近畿水の塾

役職名	氏名
理事	足立 崇博
理事	磯貝 猛
理事	久保田 洋一
理事	白樫 誠治
理事	西河 嗣郎
理事	疋島 巖
理事	福廣 勝介
理事	南 隆雄
理事	安田 博之
監事	小峰 朋子

※ 理事あいうえお順

2019年度 役員名簿（任期2年）

特定非営利活動法人近畿水の塾

役職名	氏名
理事	足立 崇博
理事	磯貝 猛
理事	久保田 洋一
理事	白樫 誠治
理事	西河 嗣郎
理事	疋島 巖
理事	福廣 勝介
理事	南 隆雄
理事	安田 博之
監事	小峰 朋子

※ 理事あいうえお順

決 算 報 告 書

第 19 期

自 令和2年 4月 1日

至 令和3年 3月31日

NPO法人 近畿水の塾

貸借対照表

NPO法人 近畿水の塾

令和3年 3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	円		円
【流動資産】	646,496	負債の部計	
現金及び預金	646,496	資 本 の 部	
		【資本金】	200,000
		【利益剰余金】	446,496
		当期未処分利益	446,496
		(うち当期利益)	(Δ130,934)
		資本の部計	646,496
資産の部計	646,496	負債及び資本の部計	646,496

損 益 計 算 書

自 令和2年4月1日

NPO法人 近畿水の塾

至 令和3年3月31日

科 目	金	額
		円
[経常損益の部]		
(営業損益の部)		
【売上原価】		
仕 入 高	6,000	
合 計	6,000	6,000
売上総利益		△6,000
【販売費及び一般管理費】		124,940
営業利益		△130,940
(営業外損益の部)		
【営業外収益】		
受 取 利 息	6	6
経常利益		△130,934
税引前当期利益		△130,934
当期利益		△130,934
前期繰越利益		577,430
当期未処分利益		446,496

販売費・一般管理費

自 令和2年 4月 1日

NPO法人 近畿水の塾

至 令和3年 3月31日

科 目	金 額	
		円
事 務 用 品 費	69,814	
旅 費 交 通 費	29,830	
通 信 費	1,796	
会 議 費	23,500	
販売費及び一般管理費		124,940

特定非営利活動に係る事業会計財産目録

特定非営利活動法人 近畿水の塾

2021年3月31日現在(単位 円)


科目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金	0	
普通預金	646,496	
流動資産合計		646,496
2 固定資産		
一括償却資産	0	
固定資産合計		0
資産合計		646,496
II 負債の部		
1 流動負債		
前受金	0	
短期借入金	0	
流動負債合計		0
負債合計		0
2 資本金		
資本金合計	200,000	
負債・資本合計		200,000
正味財産		446,496

監査報告書

令和2年4月1日から令和3年3月31日までの第19期事業年度の
活動決算書、貸借対照表、財産目録、事業報告を監査した結果、適正かつ
正確であることを認めます。

令和3年 5月 15日

特定非営利活動法人近畿水の塾

監事（署名・捺印） 小峰 朋子 

NPO 法人近畿水の塾

2020 年度事業詳細報告

2021 年 5 月

継続的な公開研究会『河川塾』の実施

1. はじめに

2000年(平成12年)9月に八幡市で開催した「川に学ぶシンポジウム in 近畿」の後、実行委員が川に関する人のネットワークの継続や知識の習得を兼ねて、摂南大学澤井教授を中心にスタートし、2002年(平成14年)年8月よりNPO法人近畿水の塾事業の一つとして継続している。

2. 実施内容

河川を楽しく、幅広く、実験・具体例(フィールドとしてピオトープづくりや河川蛇行実験など)を併せて判りやすく学ぶこと、様々なセクターからの受講生が時の話題・情報を提供する。

第1回は2000年11月に始まり、2019年6月の総会記念講演で195回を迎える。受講生は、学生・行政担当者・コンサルタント・市民など会員及びその紹介を受けたもので、2000、2001年は河川の基礎工学シリーズ、特別フィールドシリーズ(ワーキング)、2002年はマイリバーシリーズ、2003年は河川関連法(自然再生から淀川を例とした河川整備計画)、2004年は淀川の整備計画と水資源、付替え300年を経た大和川など、2005年は琵琶湖・淀川、都市と農、市民参加型公共事業など、2006、2007年はマイジョブ&リバーとして会員の仕事と川への関りなど、2008年はマイジョブ&リバー、流域委員会シリーズ、古者に聞くシリーズ、2009年はマイジョブ&リバー、番外編を中心に10年を経て第100回記念企画、2010年はマイジョブ&リバー、流域委員会シリーズ、2011年からはマイジョブ&リバーなどを中心に展開し、また参加費(資料代)を会員外500円、会員無料とし参加の枠を広げている。

当初は河川情報センター6F会議室をお借りし、平成17年からは大阪府環境情報プラザ、平成28年からは主会場を天神橋3丁目のAtelier CKに移し開催しているが、2019(令和元)年末に中国武漢で発生し、世界にパンデミックをもたらした新型インフルエンザ(コロナウィルス、COVID-19)により令和2年3月以降の開催を自粛している。

関西では2020(令和2)年4月に緊急事態が宣言され、その後は2021(令和3)年1月に2回目の緊急事態宣言、4月にはまん延防止重点措置に続いて第4波に対する3回目の緊急事態が宣言されるなど、先の見通せない状況に陥っている。このような状況のもと、河川塾は延期や中止を余儀なくされ、2020年度に実施できたのは以下の1回であり、順調に開催してきた河川塾もここに及んで足踏みすることとなった。

3. 成果

実施回数は1回に留まったが、近畿における川や水辺に関する知識に留まらず多角的な知識を得、時の情報を共有でき、また各地での活動を知り、様々な個人・団体との交流が図れた。

4. 今後の課題

- ・事前に講座・フィールドの希望内容を会員より収集
- ・会員・受講生より得た情報などから、不定期に新たな知見を得られるシリーズ(フィールド・講座)の設置
- ・二級河川の流域連携など、今回のコロナ災禍のような状況下における河川塾の開催方法も含めて検討が必要である。

5. その他

今後の具体の予定として、

- ・マイリバーを継続して、情報を蓄積し交流を図り、またこれらを紹介しながら川の評価基準により表彰する
- ・河川踏査、写真・資料収集等
- ・干潟事例報告、提案
- ・環境学習の検討報告
- ・河川で合宿(フィールドワーク)など、

コロナ災禍を教訓とし、新しい生活様式に沿ったオンライン塾の開催なども検討していく。

(報告 西河嗣郎)

回	月/日	内 容
203	2020 11/28	(拡大・フィールド版) 尼崎の歴史文化について～10/10に開館した尼崎市立歴史博物館を訪ねる～ 安田博之(理事、尼崎市教育委員会社会教育部長)

(2) 人と水との関わりに係る事業の企画及び実施

第2回琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム IN大阪 兼 第22回近畿水環境交流会

■日時：令和2(2020)年11月21日(土)
12:30~17:00(12:30~ポスターセッション)

■場所：大阪工業大学梅田キャンパス2回会議室
全体司会 石田裕子から新型コロナウイルス対策
として、換気、消毒の徹底お知らせ。

開会あいさつ 主催者代表 澤井健二 13:30~

近畿水環境交流会は1999年琵琶湖・淀川水環境
交流会として開始。以来流域を代えて巡回してきた。
毎年7月最後の土日、シンポジウムとEボートレー
スをしてきた。猛暑を避けるため今年は5月に計画
したが、コロナで断念。

琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウムは昨年
5月に初めて実施したもの。5年前鬼怒川が破堤し、
危機感が募ったことで開始。今年2回目。阪神地区
も含めて、山・川・海をつなぐ形でジョイントする
ことにした。毎年2月に河川フォーラムもしており、
それも含めたネーミングになっている。昨年2019
年は治水・環境・文化をテーマにしたが、今年は治
水と文化にした。

共催者代表 川野常夫あいさつ

常翔学園は2021年に創立100年を迎える。ここ
は2017年開設。梅田から傘をささずに来れる場所。
今年2020年から農学部が開設、2023年は現代社会
学部が開設予定。

■講演

① 治水 13:40~14:40

豊口佳之(とよぐちよしゆき)：国土交通省近畿
地方整備局河川部長

最近の水害の状況としては、

h27年鬼怒川が決壊。

h28年8月北海道九州で被害。

h29年九州北部豪雨で流木被害大。

h29年秋田で7月8月に雄物川が氾濫。

h30年5月再度雄物川被害。。玉川ダム鑑畑ダム
防災操作で浸水面積は100ヘクタール減る。

h30年7月豪雨は72時間雨量が多く、死者行方
不明232人で、昭和57年の長崎豪雨以来の死者だ
った。水害そのものは短時間だが、影響は長続きす
る。

R1年台風19号、ハツ場ダム他のダムを併せて下
流で1m水位を下げる事ができた。利根川は決壊
しなかった。

R2年7月豪雨は、球磨川付近の線状降水帯で8
時間雨が続いた。球磨川は狭窄部が10キロと長く、
川幅を広げることができず、逆流するので水を減ら
すしかない。川辺川ダムは休止していたが水害は起
きた。

ダムでさまざまな工夫をしている。住民の体験ツ

アーなど地域振興にも配慮している。流域治水で進
めたい。

問：なぜ利水が不必要なダムを利用しないのか？

答：それはよく検討されている。

問：実態は違うのでは？

②文化 14:50~15:50

飯塚公藤(いいづかたかふさ)：愛知大学

「琵琶湖淀川大阪湾流域圏における近代舟運の変
遷」について

博士論文を本としてまとめた。「近代河川舟運
のGIS分析」(6500円)。地理学からのアプロ
ーチです。河川舟運の明治中期から昭和初期の盛衰過
程を研究。内容は、

①空間的検討舟運の変化と地域差

②盛衰過程の要因を考察

③GISによるアプローチの有効性

1979年黒崎先生が全国の舟運をまとめている。
淀川、木曾三川、利根川が3大舟運流域。明治時代
は1882年(明治15年)頃までが舟運の最盛期。以降
鉄道が通り、舟運は減っていく。

1883年から1935年までが衰退期。だが、淀川流
域の輸送力はかなり大きかった。

1890年(明治23年)は32664隻。流域人口
2,483,000人。3つの流域では利根川流域は人口は
淀川の2倍だが、舟は淀川が多かった。琵琶湖は、
明治時代の浜や港は151ヶ所。瀬田川周辺はゼロ。
しかし鉄道ができて舟は必ずしも減っていない。

淀川流域の船舶数は、1913年から1937年まで
30000隻が23000隻に減少。

室戸台風(昭和9年)で3000隻被害。その影響かど
うか、細い舟が太くなった。舟から舟への荷物積み
替えもあったらしい。

GISはデータ共有が可能。大阪市内から伏見まで、
物資輸送が多かった。今後舟運の可能性もあるかも。

■総合討論：進行：久保田洋一

流域治水という言葉の中には、堤防強化という方
策以外に、かつて行なわれていた、霞提、野越、信
玄堤などという、周辺に水を一時的に流す方策もあ
るだろう。あふれさせる治水が現実的。

舟運でいえば道頓堀のように川に表を向ける動
きもある。

淀川大堰を船が通過できるようにしたい。

本川以外の、例えば城北川などにも舟つき場をつ
ける意味もあるだろう。

利水ダムの治水への一部転用は進むだろう。

巨椋池の一部を治水対策で利用する方向も探り
たい。

治水は砂防対策など、多様な方策が必要。

などなどの話ができました。(以下略)

(文責：久保田・石田)

ホームページの作成・更新等についての事業報告

1. はじめに

当会では平成 14 年 9 月 15 日にホームページを立ち上げ、会の概要、入会方法、事業内容、活動報告などを公開している。

また、会員はメーリングリストに登録し、会員間の情報交換を常に行っている。

2. 実施内容

ホームページの内容は以下のとおり

- (1) 当会の概要等
 - ・ 入会方法
 - ・ 設立の経緯、総会資料
 - ・ 会員紹介のコーナー など
- (2) イベント情報
 - ・ 当会主催のイベント案内
 - ・ 河川塾案内
 - ・ 他団体のイベント案内
- (3) 活動報告
 - ・ 当会の活動報告
 - ・ 新聞記事掲載
- (4) リンク集
 - ・ 水環境等の市民団体等のリンク集

3. 成果

随時更新を行い、常に最新情報を発信した。過去の報告も掲載しているため、会員の資料室としての利用もされている。総会資料についても掲載している。

なお、開設当初から利用していた Yahoo!ジオシティーズサービスが平成 31 年 3 月末で終了したので、平成 30 年 12 月 29 日に以下のサーバーに引っ越した。

<http://kmizunojuku.kachoufuugetu.net/>

スマホでは広告が少し邪魔になりますが、パソコンでは広告も少なく見やすいです。

4. 今後の課題

- ・ イベントの案内だけでなく、川に関わる活動をしている団体や個人の紹介をするなど内容充実を目指す。
- ・ 他のホームページにリンクしてもらい広く閲覧してもらうように工夫する。
- ・ <http://kmizunojuku.kachoufuugetu.net/>
ブックマーク、名刺に印刷をお願いします。

(報告者：安田 博之)